

水泳事故対応実地訓練 振り返りシート(公開研修・校内研修用)

【実地訓練を行うことの趣旨・ねらい】

- 1 学校安全管理に対する教職員一人一人の意識の向上
- 2 校内の連携・協働体制の構築(危機管理体制の定期的な見直し・改善)
- 3 緊急時の対応力の向上(冷静に対応する心構えや迅速・適切な応急措置等)

＜他校から参観の先生方へ＞

教職員同士の会話や動きを近くで確認し、多くの気づきを得る機会としてください。

訓練前	振り返りポイント	※【 】は短冊に示されている役割	気づき(良かった点、改善点など)
↓	1 危機管理マニュアル、事故発生時の役割と内容(緊急時の7つの役割を示した「短冊カード」等)について全教職員が共通理解を図ることができたか。		
	2 AEDなど緊急時に携行する物品がまとめて配備されており、全教職員がその場所を知っていたか。		
訓練中			
職員室	1 事故発生直後に対応できる教職員を集め、迅速に役割分担、行動指示ができたか。【本部】		
	2 事故発生から何分で救急車を要請できたか。 救急車要請時に児童の症状や様子を伝えることができたか。 【連絡・記録⇄現場対応・補助】、【救急車対応】 ○一般に、救急車要請から現場到着までには全国平均で約8.7分かかるとされています。心停止から1分ごとに救命率は7～10%下がるとされており、救急車到着までにいかに迅速・適切な応急措置(心肺蘇生)を行うかが命を救う上で重要です。	()分で要請。	
	3 事故の発生状況や応急措置の内容・時刻、児童生徒の様子を正確に把握し、ホワイトボードに記録したか。【連絡・記録】 ○「どうして事故が起こったのか」、「どのような対応が行われたのか」という保護者の思いに対し、学校は説明する責任があります。応急措置が最優先であることは言うまでもありませんが、並行して記録を残すことが大切です。		
	4 保護者へ事故の概要を的確に伝えたか。【保護者対応】 ○事故の概況、けがの程度など最低限必要とする情報を整理したうえで、確認できた内容の範囲内において説明します。また、保護者の不安な心情に寄り添うとともに、保護者の意向を丁寧に確認します。		
	5 「本部」は事故の全体状況(何が起きたか、被災の状態、現場の状況等)を把握し、対応に遅れが生じないよう、他の教職員への的確な指示を行っていたか。		
事故現場	1 被災児童生徒に対する適切な初期対応ができたか。(意識・呼吸の確認など) 【現場対応・補助】 ⇒ 反応がない場合はすぐに119通報とAED準備。 ⇒ 頭部・頸部損傷の可能性がある場合は体位の変換や移動に注意。		
	2 適切な応急措置ができたか。(心肺蘇生、AEDの使用(濡れている場合は身体を拭く)、気道確保、口腔内の確認・内容物除去等)【現場対応・補助】 胸骨圧迫は、 ・強く (小児は胸の厚さの1/3沈み込むように) ・速く (1分間に100～120回のリズム) ・絶え間なく (中断は10秒以内)	蘇生中に胃の内容物の逆流を起こすことがある。逆流が起こったら、溺水者の体を横に向け、口腔内の内容物が流れ出やすくし、口腔内の吸引や清掃を行う。	
	3 対応状況(児童生徒の様子、応急措置の時刻・内容等)を随時記録し、「連絡・記録」と連絡を取り合い、共有できたか。【現場対応・補助⇄連絡・記録】		
	4 他の児童生徒をプールから上がらせ、事故現場が見えない場所へ誘導できたか。 事情がわかる児童生徒に聴き取りを行い、記録することができたか。【児童生徒対応】		
訓練全体	教職員が声をかけ合うなどして、協力して取り組むことができたか。		